

<こんにちは「木津川市長」>

「あの時、合併してよかった」 と思えるまちづくりをめざして

河井規子氏(木津川市長)

聞き手・木村幹雄氏

(連合京都会長・自治労京都府本部執行委員長)



木村 今年3月、木津町と加茂町、山城町が合併し、木津川市が生まれました。木津町の町長としても、今回の合併には大変ご尽力されましたが、合併後、初めての市長選挙にご当選され、本当におめでとうございます。

河井 私には後援会がありませんので、合併の調印式を終えた後、自分で写真撮影からポスター作成、書類の準備などに慌ててかかりました。事務所が設置できたのも4月始めで、バタバタしました。ご無理もお願いしたと思いますが、お世話になり、有り難うございました。

合併は、住民の理解が一番のポイント

木村 木津町の新しい自治体づくりには、労働組合の立場からも応援していきたいと思っています。今回の合併では、何に一番苦勞されましたか。

河井 交付税削減などによって自治体財政がかなり厳しくなっています。木津町として単独で行くという選択もありましたが、これまでも広域として永く皆さんと支えあってきたわけですから、自分たちの町だけではなく、皆で生き残っていくということが大事だと思いました。

相楽郡7町村の合併が中止になった後、木津町長選挙がありまして、私は、相楽郡の核をつくる必要がある、それによって次のステップがつかれるのではないかと感じ、公約に合併を掲げて選挙に取り組みました。住民にご理解いた

だけるかが最大の課題でしたが、木津町では住民による合併の直接請求がありましたので、少子高齢化の現状を訴えて当選させていただきました。

合併協議会で大きな課題になったのは、新市の名前です。それと庁舎の位置。住民にとっては、本庁がなくなった町は寂れるのではないかという不安がありました。サービスの面では、木津町がある程度充実していたので、逆に木津町民は、合併すればサービスが低下するのではないかと心配されたり。自分の身近なところで変化が起こることに不安を抱かれました。

木村 特にこれからは、住民サービスのレベルを維持するためにも、ある程度の自治体の体力が必要ですね。

河井 木津町や精華町は、学術研究都市として国や府の資金をかなり投入していただいています。京都の中でも恵まれています。「それなのになぜ合併なのか」という思いをもたれる木津町民もおられました。合併説明会では、学研都市は木津町だけのためにあるわけではない。自分たちの町だけが発展してよいというわけではなく、恩恵を皆で分かち合うことが大事だ、と訴えてきました。木津町に学研が来ていなかったら、同じように財政的に苦しい立場になっていたかもしれない。共に、厳しい時代を一緒に乗り越えていこう、と訴えました。

木村 新市の名称は、まちのシンボルでもある



「木津川」をイメージできて、とてもきれいな名前ですね。

河井 新市の名称については、最終的に決まるまで、それぞれの町の水面下ではいろいろあって厳しかったですよ。全国からの公募では、一番多かったのが「山城市」でした。歴史的に有名な「山城の国」をイメージされたようです。3町の住民の中では「木津川市」が一番多かった。3つの町が「木津川」でつながっていこうということで決まりました。私も、この名前に決まりホッとしました。

木村 電算システムは、3町でそれぞれ違うと思いますが、スムーズに統一できましたか。

河井 それぞれの町では、自分の町に合うようにやっていたので、かなり違いました。

合併した時、電算がうまくいかなくて、ちょっと後戻りしたようなところがあります。必要なシステムがたくさんありますので、時間がかかりました。間違いなく作動するかどうかのチェックもなかなかうまくいかない。スムーズにいかないと住民の方にご迷惑をかけるので、職員は合併前から徹夜の連続でした。夏前まで、職員は大変だったんです。よく乗り越えてくれたと、感謝しています。

木村 京丹後市では、合併当日に、組合の結成総会をしました。合併がすめばヤレヤレというつもりでしたが、来ている職員の半分くらいはその日の朝まで仕事だと言っていました。ヨレヨレになった合併大会でした。

河井 初日はほとんど徹夜でしたね。合併初日は、なってみなければうまくいかかわからないと言われて、不安で、不安で。

合併効果の一つは有能な職員の増加

木村 木津川市のホームページには、市長の「訓辞」が掲載されています。3町の職員気質

は違いますか。

河井 職員の気質は3町で多少違いますが、合併して能力のある職員さんがたくさん増えたことは、合併の大きな効果だと思っています。木津川市の職員構成は、10人のうち半分は木津川町、3人が加茂町で2人が山城町の出身です。木津町長の頃は、木津町の全職員さんと話をしていました。新市になって、不安を持っておられる方も多いと思い、保育士さんや調理員さんも含めて全員に市長室に来てもらい、合併の不安やストレス、私の思いなど話し合いました。7、8月は、私の空いている時間を全部、それに当てました。

木村 職員にとっては、同じ部屋にいるだけでも安心できますね。

河井 新市の基礎をつくるのは職員です。「旧町意識は捨てて、一丸となって乗り越えよう。将来よかったと思うために一生懸命頑張ろう」ということを、私から直接伝えたいと思いました。

木村 職員への「訓辞」では、「年功序列や慣例による人事を行う時代は終わった。職員一人ひとりが切磋琢磨し、市民の幸せを願い、その目的を達成するために責任を持って努力していただける方、更には、他の部や課が抱えている政策的課題を木津川市全体の課題として捉え、協力・調整して解決に取り組んでいただける方に、責任あるポストに就いていただき、木津川市民のためにご活躍いただきたい」と述べられています。

そこでいつも悩むのは職員のモチベーションをどう高めていくかということです。市長として職員に期待することは何ですか。

河井 年功序列をすべて否定するつもりはないんです。長年の経験を生かしていただくことはもちろん大事だと思っています。職員が頑張ったら頑張っただけ、それを評価できるようなことができないかと考え、各課で「執行目標」を

立てていただきました。

「執行目標」を提出してもらう前には、課の中で話し合いをします。決まったら発表してもらう。自分の意見を20分で確実に皆に伝えるという訓練の機会にもなっています。これからの職員には、政策立案能力が備わっていないと、自治体間競争に勝ち抜いていけません。こういう言い方はよくないかもしれませんが、自分の町ではこういう課題がある、こういう悩みがある、それに対してこうしていったらどうや、という案をどんどん出してもらえそうな環境を作りたいですね。そうじゃないと、これからは市を支えていけない。できるだけ自分の考えを提案してもらえらる機会を作り、それを取り上げられる組織にしていきたいと思っています。

「執行目標」は、検証して、最終的には評価します。評価は、自己評価と、私たちも評価する。「執行目標」はすべて市民に公表しています。結果も公表します。自分たちがやっている仕事を評価してもらい、張り合いのある、やり甲斐のある職場づくりができたと思います。

木村 ほとんどの課の「執行目標」に、残業時間の短縮が上げられています。行革は避けて通れないですね。

河井 合併を引っ張ってきた私としては、何年か先に住民が「あの時、合併してよかった」と思っただけのように、とりあえずはこの4年間、基礎づくりをやっていきたい。そのためには行革も必要です。

今回、職員の給与水準は木津町に合わせました。かなり差のある自治体もありましたが、職員一丸となって、気持ちを前向きに持ってもらうためには、スタート時点が重要で、差があってははいけません。給与削減は、できるだけ最終手段だと考えています。その前に無駄を探していく。職員自らが知恵を出して、自分たちで行革したうえで、住民の皆さんにもご協力をいただこう、と。今度、私が講師となって、職員

全員を対象に財政説明会をします。財政の現状を共有してもらって、「私たちは何をすべきか」を考えてもらおうと思っています。



子育て世代への厚い支援

木村 男女共同参画社会の実現は、労働組合としても大きな課題です。河井市長は、府内唯一の女性市長ですが、今後、どんな施策を考えておられますか。

河井 市民には若い方がかなりたくさんおられます。これからは、そういう若い女性が働きやすい環境を、できるだけ整えていきたいと思っています。その点でも子育て支援策は重要です。

私も3人の子どもを育ててきましたので、子育ての大変さ、難しさは痛いほどよくわかっています。子育てをする期間は限られているんですね。その時期を乗り越えるには、手だてがないと乗り越えられない。そのへんの施策を手厚くしたいんですが、まだ合併したばかりですので、今後の課題だと思っています。

3町の一体化には道路が課題

木村 市内を走る163号線は、いつも渋滞していますね。何とかならないのでしょうか。

河井 加茂町に行くには、163号線しかありません。天理・加茂・木津線は、クネクネと曲がって歩道がなく、道幅が狭くて危険です。山城町とは泉大橋一つでしか、つながってないんですよ。大きな災害でもあって落ちてしまったら、もう行き来ができません。今掛かっている泉大橋は1951年に建設されたもので、すでに50年以上たっています。国に、もう一つ橋を掛けていただきたいと要望しているところです。

来年夏に、新市の本庁が、旧木津町役場の北側に建ちます。山城・加茂の住民は、本庁に来

ていただく機会が多くなります。目の前にあるのに、渋滞して行けない。1時間もかかるということでは申し訳ないですから、是非、道路を整備してもらえよう、国に要望しています。

木村 町の安心、安全のためにも、木津川市としては道路が必要ですね。

河井 ガソリン税や自動車重量税などを充てた道路特定財源は、一般財源化するそうですが、地方にとってはまだまだ道路が必要です。「道路は無駄だ」と言うのは、東京に住んでいる人の感覚です。東京では、地下鉄が次から次へと来ますが、私たちは車がなかったら生活できません。3町の一体化を確保するためには、道路がどうしても必要です。国に要望に行った時は、「是非、地方の道路を見に来てください」と言っています。バスも通ってないところがある。自家用車は1人1台です。自動車税は、地方に住んでいる私たちが一番、払っています。それで「税金の無駄」と言われたら、辛いですね。

「合併してよかった」と思えるまちづくり

木村 新しい木津川市の10年後は、どんなふうにしたいと思っておられますか。

河井 3町が一体性をもつには、自分の町が好きになる、こんなすばらしいものがあると、まず市民に知ってもらわないと、なかなか一つの気持ちになれないと思います。

3町それぞれ特色がありますが、それを生かしながらまちづくりをするには、住民の協力なしではできません。山城には古墳など歴史的な宝物がありますが、それを観光化するのではなく、合併した市民の皆さんにまず知ってもらうことが大事です。それには女性の意見がプラスになります。女性はちょっと珍しいものとか、いいお店があると行きたくなるんですね。行くと自慢したくなる。それがクチコミで広がります。だから、まず観光パンフレットをつくって、全戸配付しようと思っています。学研にある研

究所も、まず市民に見てもらいます。これは大きな柱になるかなと思っています。

加茂では農家が、観光地などで採れたての野菜を、1袋100円で売っています。そういう方法は、加茂が発祥の地だと言う人もいます。朝市では、農家が朝採りした野菜を格安で買えます。地産地消にはすばらしい環境なので、それもアピールして、住民に身近なものを食べて健康になってもらえるようにしていきます。

学研都市ではいろいろな研究をされています。レーザーでガン細胞を破壊する研究は、ノーベル賞の候補にもあがっているそうです。世界から学研都市が認められているということは、ここに住む子どもたちにも夢を与えます。卑弥呼の鏡といわれるのものが出土したり、最先端技術があったり、「ほんまものの宝物」があるというのはすばらしい財産です。

木村 古代でも最先端だったということですね。

河井 久邇京は3町域にわたっていたそうです。加茂が左京で、山城と木津が右京。木津には港があって、東大寺を建てる材木は、ここに揚げられたそうです。国の首都がここにあったということは、すごいことだと思います。近鉄奈良駅の噴水横に、行基さんの銅像が立っています。行基さんは、泉大橋の麓にある泉橋寺を拠点にして、橋や道路をつくられたそうです。歴史上の人物の足跡を身近にあり、ロマンを感じます。

損や得やという小さい問題ではなく、古くから一体感があり、これからも力を合わせていける町です。そういうことを、できるだけ訴えていきたい。そして、若い人が住み続けてもらえるように、働ける場所ももっとつくりたい。ここで働いてもらって、ここで住み続けてもらえる市にしていきたいと思っています。

木村 今日はお忙しいところ、有り難うございました。今後ともよろしく願いいたします。

(このインタビューは、11月7日に、木津川市役所で行ったものです。)